

1607-033

2016年7月27日

ユニアデックス 学校向けに「クラウド型パソコン教室サービス」販売開始 — BYOD を支える仮想デスクトップ環境をクラウドサービスで提供 —

ユニアデックス株式会社（本社：東京都江東区、社長：東 常夫、以下ユニアデックス）は、学校向けに、個人所有の持ち込みパソコンの利用を可能にする「クラウド型パソコン教室サービス」を本日から販売開始します。

これまで大学では、パソコンを使った授業を行うために専用のパソコン教室を各キャンパスや建物ごとに整備してきたため、数百台から千台を超えるパソコンを所有している大学も少なくありません。このことから、運用維持費や、数年ごとに行う最新モデルへの入れ替えコストの増加は深刻な課題となりつつあります。

その一方、学生個人が所有するパソコンやタブレット端末は高機能化が目覚ましく、低価格化も伴い所有率が高まっています。これにより、大学では個人所有の持ち込み端末の利用を許可するBYOD（Bring Your Own Device）の採用が注目されつつありますが、セキュリティー対策やOSの多様化による制約などの問題から、導入が進みにくい現状があります。

このたびユニアデックスは、学校外のデータセンターで運用するクラウド上に、仮想的なパソコン教室の機能を搭載した「クラウド型パソコン教室サービス」の販売を開始します。本サービスは、クラウド上に環境を構築するため、専用のパソコン教室は撤廃でき、パソコンの故障やソフトウェアメンテナンスなどを対応する専任のITスタッフも不要になります。

さらに本サービスでは、授業や自習で学生個人が所有する端末（ノートPC、タブレット端末など）が利用できます。学生は、個人所有の端末からWebブラウザを用いて仮想デスクトップにログインするだけで、学内のどの教室からでも授業などで利用するソフトウェアが搭載されたデスクトップ環境をセキュアに利用できます。

教員は、場所が限られた従来型のパソコン教室にとらわれず、一般教室においてもパソコンを用いた授業が開催でき、授業で使わない時間帯は「自習用デスクトップ」として開放し、場所を問わず利用を促進するなど、従来の机を並べた講義型教室での教育から、グループ学習型教室へ学習環境の改革が実現できます。

本サービスは、すでに2016年4月から東京農工大学で稼働しており、学内にあった約500台規模のパソコン教室を撤廃、学生全員が個人所有のパソコンを使って、仮想デスクトップにログインし、授業や自習で利用されています。

今後、小中学校や高校では、プログラミング学習など、パソコンを使った授業の増加が予想されます。本サービスを活用することで、設備投資を抑えて迅速に対応することが可能となります。

ユニアデックスは、本サービスを大学はじめ学校向けに販売し、今後3年間で20億円の売上を目指します。

「クラウド型パソコン教室サービス」の特徴は、以下のとおりです。

1. 専用のパソコン教室を撤廃し、万全なセキュリティー下で、どこでも授業が可能に

学内にパソコンやサーバーを設置せず、クラウド上に環境を構築するため、専用のパソコン教室は撤廃でき、一般教室やアクティブラーニング教室として利用できます。パソコンの故障やソフトウェアメンテナンスなどを対応する専任のITスタッフも不要になり、授業カリキュラムと連動したソフトウェアライセンス数の有効利用も可能になります。さらに、データは全て堅牢なデータセンター内に安全に保管され、セキュリティー対策が強化されます。

2. Web ブラウザのみでアクセスする仮想デスクトップ環境

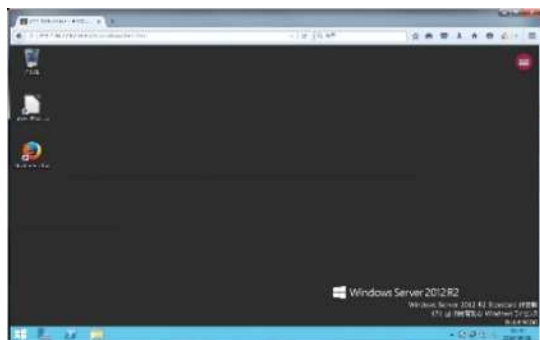
HTML5 対応の Web ブラウザさえあれば、仮想デスクトップ環境にアクセスすることが可能なため、接続用エージェントソフトなどを利用せず、OS に依存しない利用環境を実現します。



ログイン画面



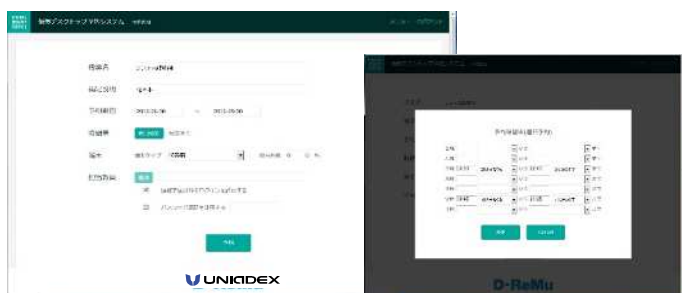
端末選択画面



デスクトップ利用画面

3. 仮想的なパソコン教室を制御する「授業自動予約システム」

学生が利用する仮想デスクトップを「授業用」と「自習用」に分類ができます。教員は、授業に必要な数の「授業用デスクトップ」として自動予約することができ、ここにログインが可能な学生を、システムが履修情報データと連携して制御します。授業が無い時間帯は「自習用デスクトップ」として利用することができ、予約された授業の時間帯になれば、履修された学生のみが利用可能となります。これにより必要なソフトウェアライセンスを無駄なく、効率的な管理が可能になります。



授業予約システム画面①



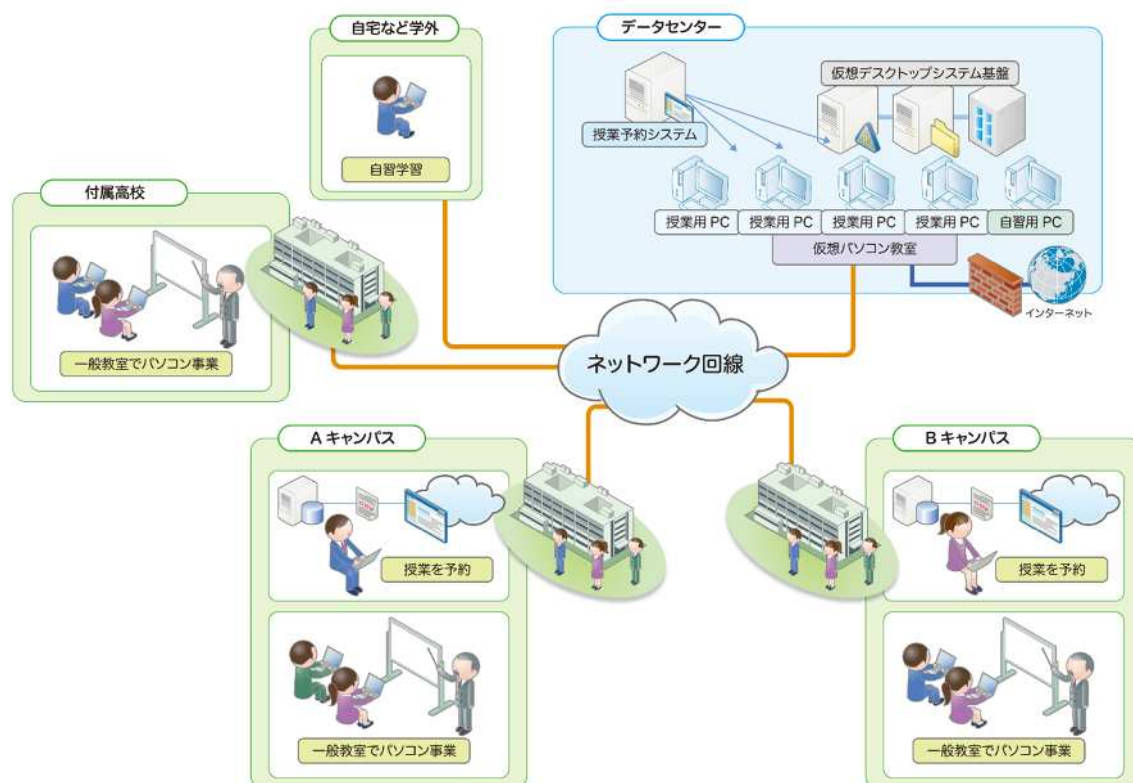
授業予約システム画面②

4. 利用台数に応じた月額定額料金

仮想的に同時利用するパソコン台数（仮想デスクトップ台数）により、利用者数に限らず月額定額でサービスを利用できます。例えば、500台の仮想パソコン教室の場合、1台あたりの料金は月額8,500円（税別）から利用できます。回線料金や搭載するソフトウェア費用などは別途必要です。

以上

■「クラウド型パソコン教室サービス」の概要図



【エンドースメント】 今回の発表に当たり、以下のコメントをいただいています。

東京農工大学 総合情報メディアセンター 教授 萩原 洋一 氏

クラウドサービスの発展には目を見張るものがあり、また高機能化が著しい個人端末の利用を前提にしたBYOD（Bring Your Own Device）との連携は、将来のスタンダードとなる一つの方向であると考え、本学ではパソコン教室を廃止し、クラウドからデスクトップ環境を利用する仕組みを取り入れ、BYOD化を推進することを決定しました。

このたび「クラウド型パソコン教室サービス」として学校向けにもサービス提供を開始されることは、今後の更なるサービス充実が期待され、心より歓迎いたします。

※記載の会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

※掲載のニュースリリース情報は、発表日現在のものです。その後予告なしに変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。